

製品名: T2R39 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18566**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	TAS2R39
別名	TAS2R39; Taste receptor type 2 member 39; T2R39; Taste receptor type 2 member 57; T2R57
遺伝子 ID	259285.0
SwissProt ID	P59534
免疫原	抗血清はヒト TAS2R39 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 218-267

背景

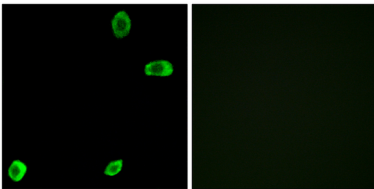
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、緑茶カテキン、大豆イソフラボン、テアフラビンを検知する苦味受容体である。このタンパク質はガストデュースンに結合しており、 α ガストデュースンを活性化する可能性がある。この遺伝子はイントロンを持たな

い。[RefSeq 提供、2015 年 12 月],機能: 苦味の知覚に関与する可能性のある受容体であり、ガストデュースンに結合している。消化管内容物の化学組成を感知する役割を果たす可能性がある。この受容体の活性は、 α ガストデュースンを刺激し、PLC- β -2 の活性化を媒介し、TRPM5 のゲーティングにつながる可能性がある。、その他: ほとんどの味覚細胞は、限られた数の苦味化合物によって活性化される可能性がある。個々の味覚細胞は苦味刺激を区別することができる。、類似性:G タンパク質共役受容体 T2R ファミリーに属する。、組織特異性:舌の味覚受容体細胞のサブセットで発現し、ガストデュースン陽性細胞でのみ発現する。、

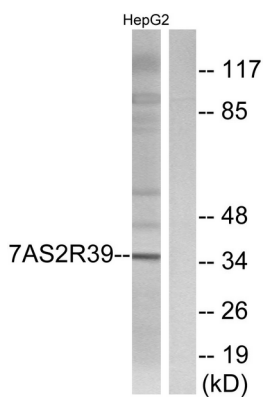
研究分野

味覚伝達;

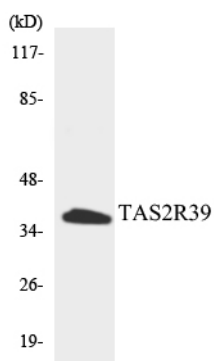
画像データ



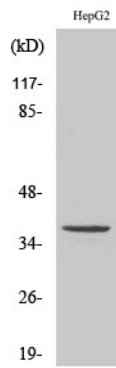
TAS2R39 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



TAS2R39 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



TAS2R39 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



T2R39 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析